

さあ、出発しよう!! ～聖霊と共に～

●はじめに

使徒の働き 13～14 章は、パウロの第 1 次宣教活動について書かれている。この宣教活動をきっかけにユダヤ人以外の宣教に本格的に力を入れるようになった。それゆえ、今日の聖書箇所は、キリスト教会の歴史において、転換期とも言える大変重要な事柄であった。

●本日の聖書箇所 ・使徒 13 の 1～12(新改訳)

13:1 さて、アンテオケには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、国主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどという預言者や教師がいた。13:2 彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい」と言われた。13:3 そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。

13:4 ふたりは聖霊に遣わされて、セルキヤに下り、そこから船でキプロスに渡った。13:5 サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神のことばを宣べ始めた。彼らはヨハネを助手として連れていた。13:6 島全体を巡回して、パポスまで行ったところ、にせ預言者で、名をバルイエスというユダヤ人の魔術師に出会った。13:7 この男は地方総督セルギオ・パウロのもとにいた。この総督は賢明な人であって、バルナバとサウロを招いて、神のことばを聞きたいと思っていた。13:8 ところが、魔術師エルマ(エルマという名を訳すと魔術師)は、ふたりに反対して、総督を信仰の道から遠ざけようとした。13:9 しかし、サウロ、別名でパウロは、聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、13:10 言った。「ああ、あらゆる偽りとよこしまに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵。おまえは、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。13:11 見よ。主の御手が今、おまえの上にある。おまえは盲目になって、しばらくの間、日の光を見ることができなくなる」と言った。するとたちまち、かすみとやみがおおったので、彼は手を引いてくれる人を捜し回った。13:12 この出来事を見た総督は、主の教えに驚嘆して信仰に入った。

◆本日の説教のポイント

①私達は、礼拝や祈りの中で、聖霊の「語りかけ」を求めよう ・使徒:13:2

パウロ達の宣教によって、多くの人々が主イエスを信じるようになった。彼らの成功の秘訣は、“聖霊の語りかけ”を聞いて出発した事であった。

聖霊の語りかけを受けて、出発する時に、神はその歩みを必ず守り導いて、祝福して下さい。私達は、礼拝の説教を聞いたり、個人的に聖書を読み、黙想する中で、“聖霊の語りかけ”を求める者となろう。



②私達は、礼拝や、祈りを通して聖霊の「力」を頂いて出発しよう。 ・使徒 13:3

彼らは、聖霊によって語りかけを受けた後も、断食をして祈り続けた。

この後、彼らの伝道旅行を通して、多くの人々が主イエスを信じるようになったが、それと同時に、命の危険を感じるような、激しい迫害にも遭った。しかし、その迫害をものともせず、彼らは前進し続けた。

彼らの原動力は聖霊によるものであった。パウロ達は、断食祈禱を通して、聖霊の力を受けて出発したので、あらゆる困難を乗り越える事ができた。私達も、礼拝や祈りを通して、聖霊の力を頂いて出発しよう。そうするなら、私達も、どのような困難をも乗り越えて、神の御心を実行し続ける事ができる。



◆聖書の約束 ・使徒 1 の 8

しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。

●聖霊と共に出発する4つのステップ

- 「神様、私に語りかけて下さい」という祈り心で、説教を聞き、聖書を読む
- 教えられた事をノートに記し、どのように自分の生き方に適応するか熟考する
- 知性によっても、霊によっても祈る
- 具体的に、一步踏み出す